

煉獄杏寿郎 ×  
竈門炭治郎



鬼滅の刃  
unofficial fanbook

僕ほんとうは  
よくしりません  
present

R18




東京  
夢限


THE  
MUSEUM OF  
MODERN ARTS  
NEW YORK

9125

心を燃やせ



この本は個人的に作られた  
ファンブックです  
原作・アニメ・出版社様とは  
一切関係がありません。



あの日から  
ずっと夢を見る

暗闇の中  
唯一の光を目指して  
闇雲に走る不安な夢

深淵の底を  
覗くような感覚



...

竈門少年...



今と  
何と



溢れてしまいうるさくなるから



そばに居るほど  
思いが募って

……煉獄さん

あなたが好きです

大好きです

高潔なあなたへの  
穢れた感情

——こんな  
浅ましい  
俺は……

あなたのそばに居る  
資格なんてない——

継子を  
やめます





一週間後

宴？



鬼殺隊に  
多大な支援をして  
くれている方  
たつての願いでね

杏寿郎を気に入って  
彼を指名している

……ただ  
困ったことに  
なかなか癖のある  
人物なんだ

その人物が  
杏寿郎と自分の娘の  
婚姻を望んで  
いるらしく

今回の宴で故意に  
引き合わせようと  
しているようなんだ  
けれど

私は杏寿郎には  
好きな人と幸せに  
なってほしい



だから炭治郎  
彼の継子の君が

その思惑に  
巻き込まれないよう  
彼を助けてくれないか  
君は皇がごめん



そうは思えど  
あの子は優しいから  
私の立場を慮って  
強く断れないだろう



杏寿郎

ここに  
おいで

はい

お館様は俺が  
煉獄さんの継子を  
辞したこと——  
ご存じないようだ…



でも煉獄さんが  
隊内の報告を  
怠るとも  
思えないし



手前の為に  
お心遣い  
恐れ入ります

……



……煉獄さん



頼んだよ



……そんな  
不義理な俺を

では二人  
力を合わせて

きつと  
煉獄さんは  
呆れて見限った  
だろう



あの時一方的に告げて  
彼の答えも聞かずに別れた




御意



今は余計なことを  
考えるな


私情を挟まず

ただただ  
己に与えられた  
責務を全うしろ




煉獄さんは  
俺の申し出に  
何か考えた風では  
あったけれど

許すとも  
何も言わなかった



…煉獄さんの考えは  
分らないけれど  
いつだって俺の意思を  
尊重してくれる優しい人だ



鬼の討伐では  
無いにしても  
彼との最後の任務に  
なるだろう

それにしても  
すごい  
匂いだ…

気合いを入れる



この盃…

さあさあ煉獄様  
ググっと一献！

酒とは違う  
甘ったるい匂い…

何か盛られている！



煉獄さんも  
気づいている  
はず…

…うむ

私の立場絵を慮って  
強く出られないと  
思うから

どうする!?

この場に  
大きな波風を  
立てることなく

お館様の面子を  
潰すことなく

考えろ!

考えろ!



俺は  
長男だから……!

……竈門少年?!

やれる!







…っ何卒  
ご容赦ください  
ますようっ…

…っう

もう薬が  
回って…!?

…っ  
即効性が…っ

ぐらっ



鬼が出没した際  
炎柱様が酩酊されて  
いれば皆様を危険に  
晒すこととなります

ゆえに……  
お心遣いの盃は

僭越ながら  
俺が受けさせて  
いただきました



今宵——  
私の鴉を見張りに  
つけますゆえ  
ご安心ください



炎柱様  
そんな……

どうかもうしばらく  
ご滞在ください  
ますよう——

鬼おそろそと

重ねての無礼  
真に申し訳ないが  
暇させていただきました

しかしこの者は  
まだ酒の味を知らぬ  
若者ゆえに  
具合が悪そうだ

…私からも  
非礼をお詫び  
いたします

……





鬼殺任務で多忙ゆえ  
ご厚意に馳せ参じるのは  
今回限りでご遠慮させて  
いただきたく存じます

……そして  
今後は――



誰が来ようとも  
特別な酒での  
持て成しは  
不要に願いたい

匂いが……

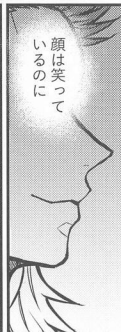


毎度にご丁寧な持て成し  
痛み入ります

しかし  
申し訳なくも――



すごく怒ってる  
匂いだ……



顔は笑って  
いるのに



盛られていた  
薬は一体……

君が先ほど  
俺の代わりに  
飲んだものは

強力な媚薬だ



恐らく自分の娘との  
婚姻関係を結ばせるため  
俺を酩酊させ  
既成事実を作ろうと  
したのであろうな

既成事実……？

コホホ……

まぐわいをさせ  
あわよくば  
炎柱家との子を成して  
家柄を強固なものに  
しようとした  
ということだ  
………  
っ



思考が霞んで  
呼吸で対応できない

薬が回るのを  
遅らせることも  
出来なかった！

不甲斐ない

触れる物  
すべてが刺激になって  
身体が高ぶってしまう

………  
魔羅が  
張りつめて……！？







強がって放置すれば  
欲を吐き出せずに  
良がり狂ってしまうぞ

こんなところで潰えて  
妹を人間に戻すという  
目的を諦めるのか？

……っ！



あの強力な  
媚薬を飲んで  
理性があるのは  
さすがといった  
ところだが――

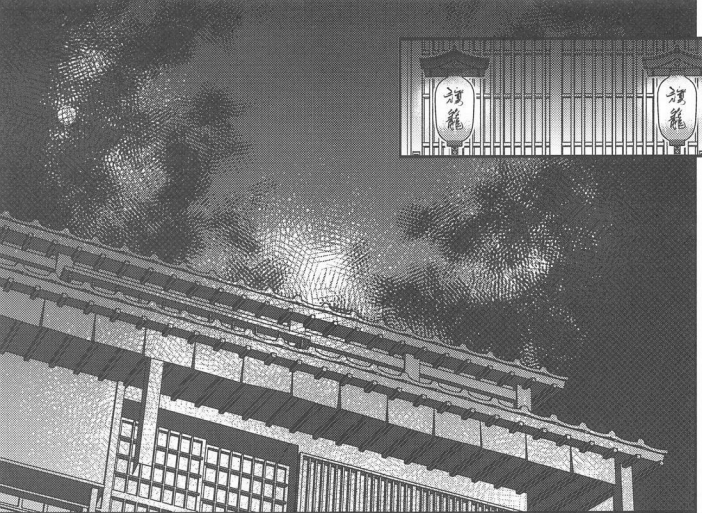
……できるのか  
その震える手で



……  
これは治療だ

目を瞑って  
何も考えるな

……俺に  
すべて任せておけ



少年

……龍門……



滅

.....ごんな.....



こんなの  
知らない

噓せ返るような  
情欲の匂い

まるで  
知らない男の顔



きつく  
抱きしめる  
腕に

愛されているの  
ではないかと  
勘違いして  
しまいそうになる



竈門少年…

愛おし気に  
甘く呼ぶ声に



…あんな  
可愛らしい  
声は  
初めて



……辛いかな？

俺は一体  
何をしているんだ

煉獄さんに  
自分の不始末の  
尻ぬぐいをさせて

彼に汚点を  
背負わせるなんて  
許されない

捨ておいてくれと  
言わなければ

……一度抜くぞ

彼の優しさに  
縋っては  
いけないのに

あつ……やあ……

溶けた頭が  
思考を散らして

抜かないでえ……





……らって……

らって……  
煉獄さんが……  
くれないから……

!?



竈門少年っ……

そんなに  
締めないでくれ  
出さすまっ……

う……



はあ……

う……



中にいっはら  
出して……

やめろ！



やめろ

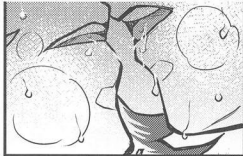
ここ……  
欲しいっ……

煉獄さんの子種……

はあ……

はあ……





薬のせいだ…っ



これが最後だから

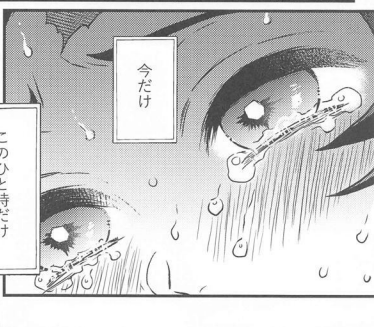


自分本位な俺は  
どこかで  
願ってしまう



あなたを  
好きなことを

抱き締める  
ことを



今だけ

このひと時だけ

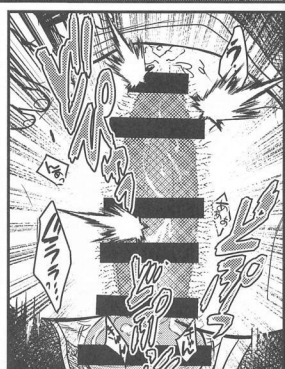
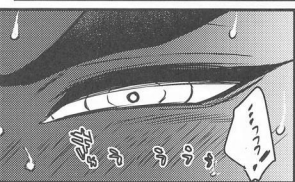
許してほしいと――

寵門少年

好きだ

君が好きだ







好きだと言って  
くれたのに――

どうしてそんなに  
悲しそうな顔を  
するんですか

媚薬の甘く強い香で  
あなたの心の匂いが  
わからない

煉獄さんが  
俺を……？

煉獄さん





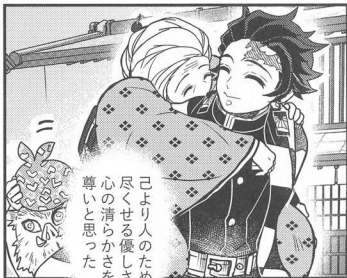
思えば



継子にしてからも  
努力を惜しまず実直に  
励む姿勢が



己より人のために  
尽くせる優しさや  
心の清らかさを  
尊いと思った



癖のある  
赤みがあった髪は

触れると意外に  
しっかりとした力で  
手のひらを  
押し返してくる



その強さが  
彼のひたむきな意思や  
頑固さと重なって  
愛おしく

いつまでも  
撫で触っていたいと  
思わせたし





紅玉の  
大きな瞳で  
見つめられると



内にある  
火花が散った



それはカチンと  
火打ちで小さな種火を  
付けたように

心の奥に  
密やかに  
優しく灯った



追うことは  
できなかつた



君への執着や  
欲望を見透かされた  
と思った



あの時

継子をやめると  
言われて



きつと君が  
ここに帰って  
来てくれるような気がして

そして

動けなかつた



あの……






ではこの胸の  
苦しきは



本当に  
そうだろうか

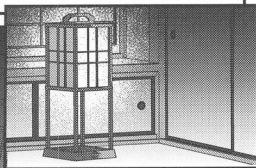




……この焦燥は



龍門少年











：手を繋ぐことから  
始めようと思っていた



俺の好きな甘味処へ  
連れて行きたいと  
思った

あんみつが  
絶品だな



…そしてたくさん  
君の話の聞くんだ

愛しき日々は

もう戻らないと

逢引には歌舞伎や  
相撲観戦はどうだろう

君はどんな幕が  
気に入るだろうか

揃いの着物を  
仕立てて行くのも  
楽しそうだ

ゆっくりりと  
日を重ね

君が許して  
くれるなら  
抱き締めて

また日を重ねて  
口吸いをし

分かっているから  
すべてを吐露するんだ

生涯を共に誓い  
君のすべてを  
もらい受けて

鬼殺を  
終わらせたのちも  
ずっと共に――

幸せに  
暮らすんだ……

…  
それなのに

治療などという口実で  
君を手ひどく抱いた

俺の元を  
去ると聞いて  
冷静になれず

他の方法を  
考えることを  
放棄した

柱として――

……いや――  
一人の人間として  
最低な行いだ

継子を  
辞めることを  
認める

終わりに  
するために――

でも俺っ――！

きつと俺の  
そばにいても  
嫌な思いを  
引き摺るだろう

何より君がそれを  
望んでいるのならば  
俺に止める権利などない

自分が望んだ  
ことじゃないか

他の柱には  
話しておくから  
師事を仰ぐといい

彼には  
釣り合わない

君は誰からも  
その力を  
認められる逸材

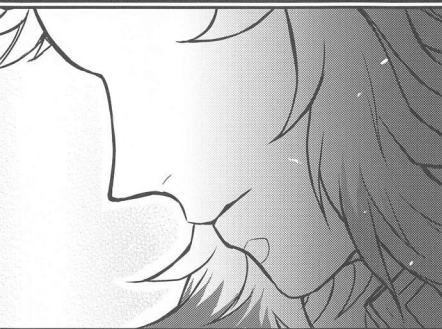
喜んで  
受け入れてくれる  
ことだろう

共同の任務にも  
就かないよう  
根回ししておく

苦しむ  
資格なんてない

…もう  
会うこと  
もない

泣いていい  
はずがない





離れていても  
俺はいつも君を

…君の幸せを  
祈っている



健やかであれ  
寵門少年！



俺は

れ……くさん

……っ

どうして  
手を離した？

煉獄…さんっ…

どうして  
逃げ出した？

煉獄さんっ…

一番欲しいものは  
すぐ傍にあったはずなのに

自分を守る  
ことばかりで

…煉獄さん—

どうして彼の心に  
寄り添わなかった？



満ちる慟哭に  
呼吸すら  
ままならない程の

こんなにも  
深い愛の匂いに  
包まれて――

……煉獄さん！

どうしてひと時でも  
大丈夫だと  
思えたんだろう

離れることを

また  
失うことを――

あなたが  
こんな俺でもいいと  
求めてくれるなら

俺はここにいて  
いいだろうか

もうずっと  
あなたの元に

それが幸せだと  
言ってくれるのならば



…俺

無限列車に乗った  
あの真っ暗な夜のこと

今でも何度も  
夢に見ます

…すべてが  
変わってしまった  
夜だったから



……俺は  
欲張りな人間に  
なりました

桶豆子を  
人間に戻すため  
だけに生き

そのためには  
命さえも辞さない  
思っていたのに

ギョウ



その日から――



あなたの  
強さに……

輝きに触れ

あなたの傍で  
生きたいと

共に生きたいと  
願ってしまった

身の程もわきまえず  
俺みたいな子供が  
高潔なあなたに  
浅ましい想いを…！

…っこれ以上  
継子としてお傍にいたら  
聡い煉獄さんには  
知られてしまうと思いました

俺の気持ちを知ったら  
困った顔をするだろう

それでも優しいあなたは  
きつと俺を屋敷に  
留まらせてくださる

……っ！

……っでも  
俺はっ…！

…っい…っい  
あなたが似合いの伴侶を  
屋敷に連れてきたら  
笑顔で見られていられる  
だろうか…

あなたの隣で  
幸せそうに笑う誰かを  
受け入れられるだろうか

煉獄さんの幸せを  
誰より願っている  
はずなのに  
そんなことばかりっ…

不釣り合いだと言いながら  
釣り合う努力もせずに怠情で  
疎まれ傷つくのが怖くて  
逃げ出した…っ

俺は長男なのに  
愚かで自分勝手で…！

俺はっ…！

もういい





君に劣情を抱く  
一人の男だ

君の前では  
ただの  
煉獄杏寿郎



俺を……  
随分と買いかぶって  
いるようだが……



……そして



俺の一等好きな  
可愛い笑顔を  
見せてくれ

もうそんなに  
泣くな

……胸が痛む



……っ

……っ俺……!

ギョウゴ



……二度と俺から  
離れるなどと  
言わないでくれ



あなたをたくさん  
悲しませるかも



煉獄さんの  
ややこも産んで  
あげられないし

……っ痣者だから

長くはお傍に  
いられない  
かもしれません……っ



俺の幸せは  
いつだって

愛する君と共に  
あるのだから



……うん

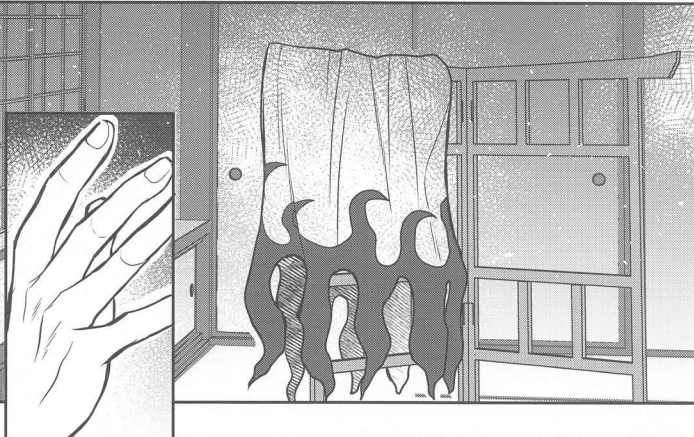
……

たとえ  
そうであろうと  
最後まで  
君といたい

……だって  
そうだろう？









優しく触れた唇が  
彼の心を表す  
ように熱くて



…炭治郎



どうしようもなく  
胸を突いた

不安そうな  
匂い

迷子の  
幼子のような

俺を…

受け入れてくれる  
だろうか





好きだ



愛している

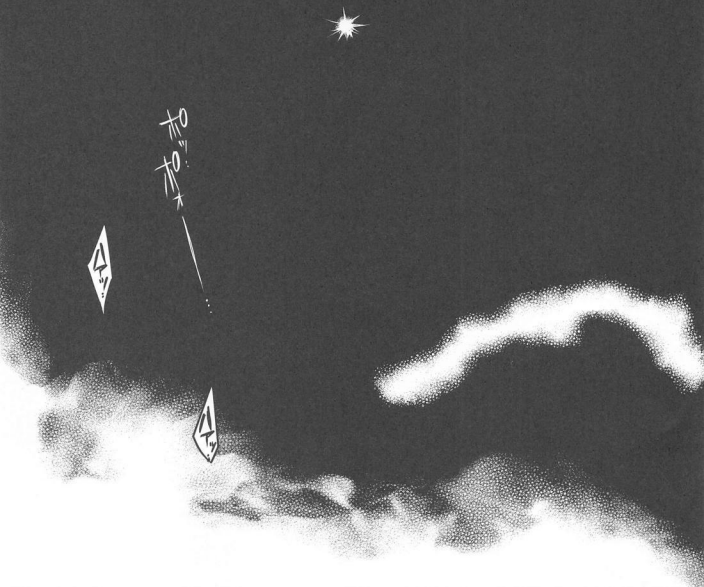
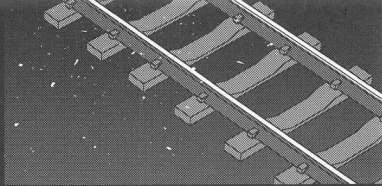
心が重なりと  
こんなにも  
満たされる



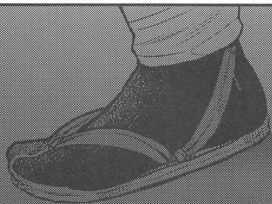
炭治郎







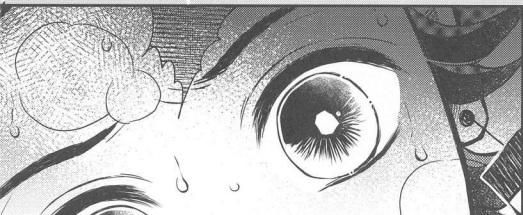


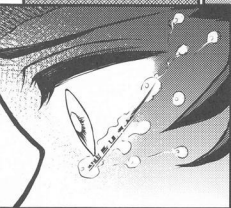
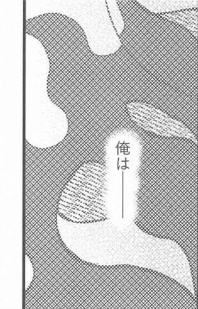


目指していた  
小さな閃光

トンネルの外に導く

優しく暖かな  
太陽の光








あなたは  
強く輝き



けれど

どんな  
困難な時も

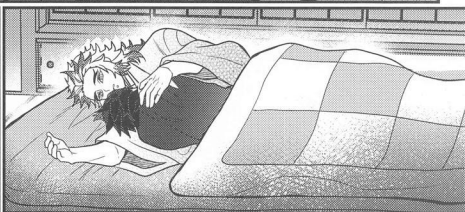


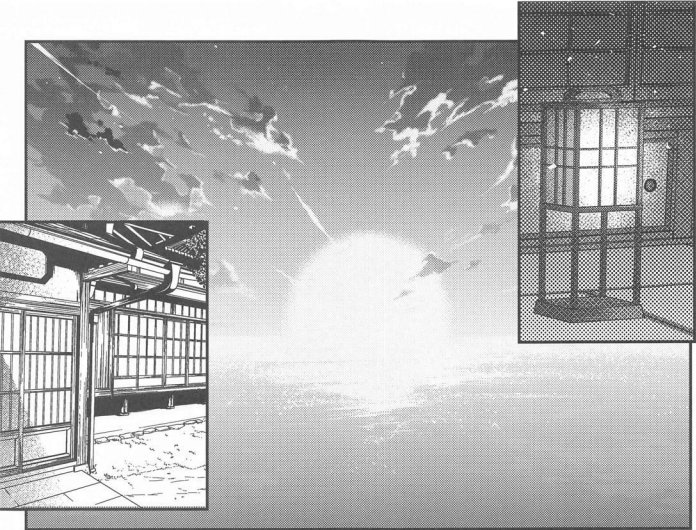
いつだって  
俺を導く  
希望の灯火だった

鮮やかな  
閃光に影引く

くらやみさえ  
やさしく照らして











それに…

炭治郎……？

—手を

繋ぎたかったんです





……そうだな



…手を繋ぐ  
ことから



ここから  
始めよう



そして  
もう二度と

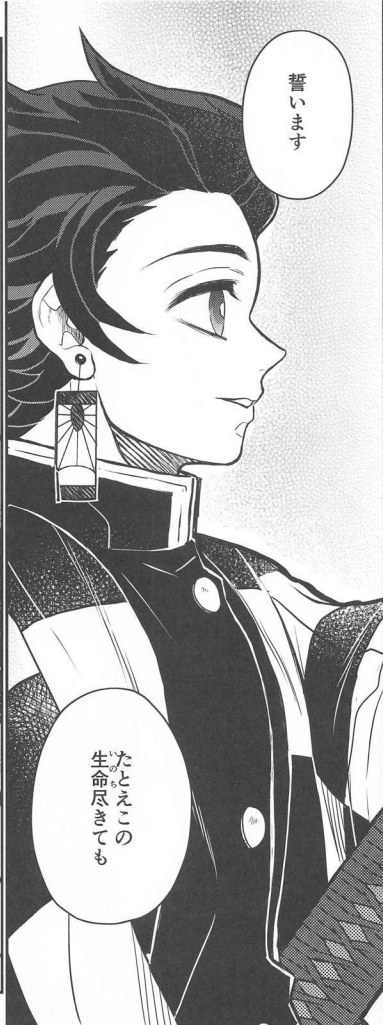
離さないでくれ





幾久しく  
あなたと共に

——これから先



誓います

たとえこの  
生命尽きても



俺も誓う

いつだって  
君と二人



東の朝焼けに  
心馳せる健やかな朝も

病める涙に  
袖を濡らす夜も



とこしえ  
永久の愛を

この手を  
繋いで



KURAYAMI YASASIKUTE

Rengoku Kyojyuro × Kamado Tanjiro  
Unofficial fan book 2021/7/22

Special Thanks /いちの様(@ichinoxoo)  
Cover painting /ハシモト様(@hassy\_rt)

Ciecle/Published by  
僕ほんとうはよくしりません/ビー(@eagleacee)  
mail : eagleacee@aol.com

Printed by/ 栄光印刷 様  
Book Desing/ nz works 様



←マシュマロ  
ご感想いただけると励みになります！



あなたのもみじのお日さま



ほら  
炭治郎

もみじだよ

綺麗だろう？

お日さまの色だ

ほんの些細な  
日常



それ以来毎年  
秋になると  
かみこ

お気に入りの  
もみじを拾いに  
行く大きな公園へ  
行きました

もみじのお日さま  
捕まえた！って  
ほっぺを真っ赤に  
しながら

袋一杯になるまで  
それは夢中に  
集めていたんです

いっしょに  
かみこ



ただ！

赤く紅葉したもみじが  
散る季節になると

見るたび  
火のついたように  
泣いて眠らず  
私たちを困らせました

熱を出すことも  
多くありました





切なげに速くを  
見つめる姿が  
目につきました

私たちの前では  
気丈に振舞っては  
いましたが

子供らしからぬ  
大人びた顔で  
何かに耐えるような……  
求め探すような眼差し

炭治郎の  
お日さま

早くこの子の探し物が  
見つければいいと

少し大きく  
なつてからは  
袋一杯とは  
いかないまでも

妹弟を連れて  
行った時に  
選りすぐって  
いたようです

成長と共に  
散る時期にさえ  
体調を崩すことも  
無くなりましたが

ずっと  
願っていた

あなた  
だったんですね

煉獄さん



かわいい  
かわいい

私の炭治郎

これから先

私の手を  
離れても

やっと  
出会えたのだから

息子を  
末永く

もう大丈夫

よろしく  
お願いします

どうか  
たくさん

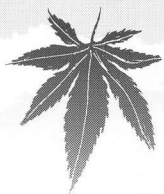


……俺のこれからの  
全生涯をかけて

たぐさん  
幸せになつて

必ず幸せに  
します

あなたのもみじの  
お日さまと



ありがとうございます!  
🍁

くらやみ

やさしくて

Kurayami  
Yasashikute | R18 Adult  
only



鬼滅の刃

unofficial  
fanbook

煉獄杏寿郎 ×  
竈門炭治郎